現代中国語における
継続表現“继续V”“V下去”について

崔　丹

キーワード　*中国語　継続義　方向補語　比較研究*

0．はじめに

現代中国語には、継続義を表す手段として(1)動詞“继续”を用いた形（“继续V”）、(2)方向補語“下去”を用いたアスペクト表現（“V下去”）、(3)両者を併用した形（“继续V下去”）がある。“学下去”と“继续学”のように言い換えが可能な場合もある一方で、“你们继续玩，我先走了。”［君たちは続けて遊んでください。私は先に失礼します。］とは言えても“*你们玩下去，我先走了。”とは言えないといった制約も見られる。本稿では(1)(2)両者の類似点と相違点を明らかにする。なお、今回は紙幅の関係で(3)は扱わないことにする。

1．先行研究

1.1.　“继续V”と“V下去”

“继续V”“V下去”“继续V下去”の用法に関する先行研究には、杉村(1983)、平澤（2006）、原・常次（2012）などがある。

杉村（1983）は、現代中国語における空間運動を表す“・下来”“・下去”が、「継続」という時間の概念を表すことを指摘した。杉村によれば、中国語の“上”は上の方向または過去を表し、“下”は下の方向または未来を表している。“・下来”と組み合わせて用いられる動詞は“・下去”の場合と比べて極めて少ない。“下去”と組み合わせて用いられる動詞として“传、流传、保存、生存、坚持、活、过（生日）、拖”などが挙げられている。これらの動詞に共通する意味特徴は“无尽期”（atelic）であり、“有始有终”（telic）の意味を含まず、更に「発生」とも「終結」とも関係しないことが指摘されている。

平澤（2006）は、“继续＋V”と“V+下去”と日本語の「V+つづける」のVを比べて、相違点を示した。“继续＋V”と“V+下去”のVには、「走る」や「動く」のような典型的な動作動詞がほとんど見られず、“发展”“保持”のような

存続や長期的な動作に関わる動詞が多いと述べている。

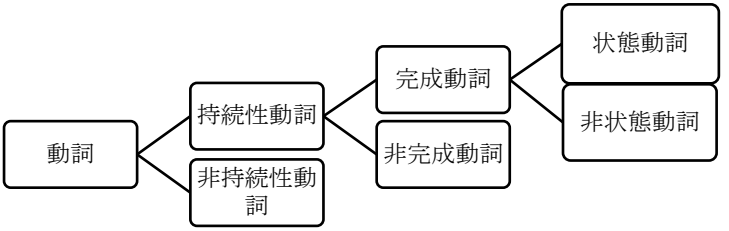
原・常次（2012）は“继续 V”“V 下去”および“继续 V 下去”の三つの形式について、時間を表す語彙との関係、“V 起来”“V 完”との関係、中断と反復、過程と結果の 4 つの側面から述べ、その違いについて分析している。

冒頭で述べたように、杉村（1983）は“V 下来”と“V 下去”については分析を行っているが、“继续 V”については言及していない。平澤（2006）は“继续 V”および“V 下去”“继续 V 下去”の例文を挙げたものの、統語的な比較を行っていない。本稿では、これらの先行研究で検討が不十分であった“继续 V”と“V 下去”に着目し、その類似点と相違点を明らかにしたい。

1.2. 動詞の分類

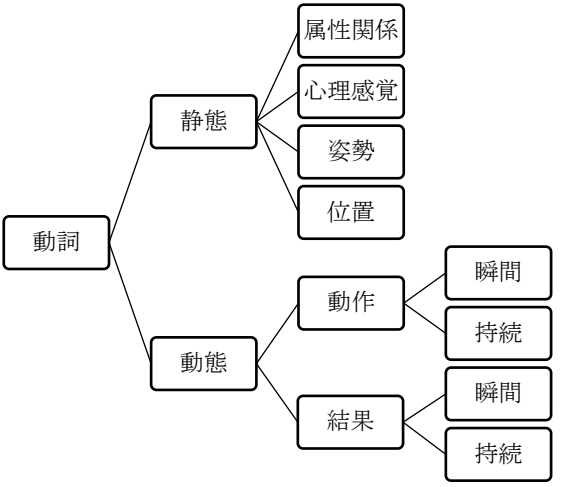
中国語の動詞の分類は、多くの研究者によって様々な基準で行われている。下記で動詞の持続性に関わる先行研究を概観する。

马庆株（1981）は接尾辞“着”を伴うことができるか否かによって、動詞を大きく二種類に分類し、“着”を伴うことができないものを「非持続性動詞」と呼び、“着”を伴うことができるものを「持続性動詞」と呼んでいる。また、意味は「完成」を表せるか否か、「持続性動詞」を「完成動詞」と「非完成動詞」に分けている。さらに、動作・作用の完成後、「状態」を表せるか否かによって「完成動詞」を「状態動詞」と「非状態動詞」に分けている。



【図１】 马庆株（1981）による動詞の分類

持続性を下位分類として取りあげている研究としては、胡裕树・范晓（1995）と房玉清（2001）がある。胡裕树・范晓（1995）は中国語における“情状”によって動詞を順次分類することができるとしている。これに従えば、動詞は第一レベルでは静態動詞と動態動詞に分けられる。さらに第二レベルでは、静態動詞が属性関係、心理感覚、姿勢、位置に分けられ、動態動詞は動作と結果に分けられる。そして、持続性が関わる第三レベルでは、動作動詞と結果動詞がそれぞれ瞬間動詞と持続動詞に分類される。



【図 2】　胡裕树・范晓（1995）による動詞の分類

房玉清（2001）は「動態助詞」と共起できるか否かによって、動詞を二種類に分けている。「動態助詞」と共起できないものは“少数不表示变化的动词”、「動態助詞」と共起できるのは“多数可表示变化的动词”としている。下位分類は“着”と共起できるか否かによるものであり、“着”と共起できないものを「結束性動詞」と呼び、“着”と共起できるものを「持続性動詞」と呼んでいる。

马庆株（1981）は動詞の持続性を第一基準にして動詞を分類している。胡裕树・范晓（1995）は“情状”によって、房玉清（2001）は「動態助詞」の共起の有無によって動詞を分けている。後者の２つの研究では動詞の持続性は下位分類に関わる要素として取り上げられている。本稿では動詞の持続性に第一に着目した马庆株（1981）の分類を援用するが、必要に応じて他の動詞分類を参照する。

こうした先行研究を踏まえて、本稿では“继续 V”“V 下去”の二つの表現形式の意味と用法を検討し、動作や状態の開始点から終結点に至るまでの限界性の有無、動作の連続性の有無、文の焦点などに着目して分析を行う。また、動詞、副詞、指示詞などとの共起関係についても考察を加えていきたい。

2．動詞の持続性と“继续V”と“V下去”の共起関係

马庆株（1981）は、動詞の後に“着”を付けられる動詞を持続性動詞と称している。この類の動詞は、動作の開始点と終結点との間に一般的に長い時間が費やされるものであり、持続という特徴が比較的強く、“继续”“下去”の両者と共起することができる。

等：a. 我要继续等会儿。［私はこのまましばらく待ちます。］
b. 再等下去，也等不到结果。［これ以上待っていっても、結果は分からない。］

一方、非持続動詞は、持続の意味特徴を持たない動詞である。そのため、動作や状態の継続義を表す“继续”“下去”とは共起しない。しかし、一部の非持続動詞とは共起する。この特性を明らかにするため、本稿は马庆株（1981）による非持続動詞を、「属性関係動詞」、「心理状態動詞」、「瞬間動詞」の3つの下位分類に分けて説明する。

「属性関係動詞」とは、属性や関係を表す動詞である。“继续”“下去”はこのような動詞グループとは共起しない。“是”［である］、“属于”［属する］、“等于”［等しい］、“标志”［表示する］、“当作”［見なす］などの動詞がこれに該当する。

*继续等于－*等于下去　*继续是－*是下去

「心理状態動詞」とは、心理状態あるいは生理状態、認知を表す動詞である。“继续”“下去”はこのような動詞グループとは共起しない。「心理状態動詞」には“知道”［知る］、“喜欢”［好きになる］、“讨厌”［嫌いになる］、“害怕”［怖がる］、“失望”［失望する］などがある。

*继续知道－*知道下去　*继续相信－*相信下去

「瞬間動詞」とは、瞬間的な動作を表す動詞である。これは更に、動作瞬間動詞と結果瞬間動詞に分けられる。この場合、“继续”“下去”は“踢”［蹴る］、“砍”［たたき切る］、“碰”［ぶつかる］のような動作瞬間動詞と共起して、動作の反復を表すことができる。（例文は北京大学のCCLコーパスから検索したものである。）

(1) 我父亲要我回到球场继续踢球。
［父親は私に球場に戻って、続けてサッカーをするように言った。］
(2) 中国足球这样踢下去，水平提高有望。
［中国のサッカーチームはこのようにやり続けると、レベルアップが期待できる。］
(3) 为了生活，刘裕只得去新洲地方继续砍柴。
［生活するため、劉裕は仕方なく新洲地方で柴刈りを続ける。］
(4) 不要再砍下去了，青山真要变成荒山了。
［これ以上刈り続けることを止めましょう。青山が本当に荒山になってしまう。］

これに対して、結果瞬間動詞では動作が開始から終了まで瞬間的に行われるため、開始点と終結点が重複しており、動作に持続性は見られない。そのため、このような動詞グループとは共起しない。例えば、“死”［死ぬ］、“醒”［目が覚める］、“见”［見る］、“爆炸”［爆発する］などがこれに該当する。

*继续死－*死下去　　*继续开始－*开始下去　　*继续结束－*结束下去

以上の考察から、非持続動詞であっても、動詞の持続性によって、“继续”“下去”との共起が起こり得ることが分かる。

３．“继续 V”と“V 下去”の文法的意味の違い

刘月华（1998）は“下去”の「方向義」とは、動作を通して人や物を高いところから低いところへ移動させることを表すものであると説明している。このとき、立脚点は高いところにある（例：他从山上走下去了）。また、「結果義」では物の一部を本体から離脱させることを表す。着目点は全体である（例：把信封上的邮票揭下去）。「状態義」には、(1)動態から静態へ変化（例：他平静了下去。）および(2)ある動作やある状態の継続（継続義）（例：这种药很有效，你要坚持服下去。）の二種類がある。刘月华（1998）は“下去”について「方向義」「結果義」「状態義」の三つの視点から述べている。本稿では“下去”の「状態義」の「継続義」のみに着目する。

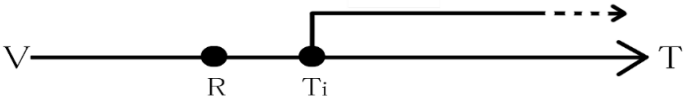
郭锐（1993）は、中国語においては動作の内部展開過程構造が重要な役割を果たしており、多くの文法現象、特にアスペクトと関係があると論じている。

動詞は陳述成分であり、その内部において開始点(inception)、 終結点(finish)、継続期間(duration)の三つの要素が展開するとされている。

原・常次（2012）は“V 下去”は atelic の事態を表現すると指摘している。即ち、“V 下去”は動作や状態の継続の開始点と展開過程を有しているものの、終結点を持たない動作を表す。本稿は郭锐（1993）と原・常次（2012）の動詞の動作過程に、発話時点を参照点 R として加え、考察を行う。

3.1. “V 下去”

はじめに、“下去”の動作過程を分析する（以下、例文は北京大学の CCL コーパスから検索したものである)。図で表すと次の【図 3】のようになる。(T_i 、T_f 、R 、V はそれぞれ開始点、終結点、継続期間、参照点、動作を表す）



【図 3】 “V 下去”の時間関係

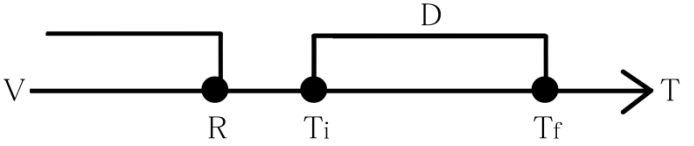
(5) 事在人为，努力干下去，总会看到胜利。(→*继续干)
[事の成否は人のやり方いかんで決まる。努力してやり続ければ、きっと勝利が見えてくる。]
(6) 他搬到那个城市，准备在那里住下去。(→*继续住)
[彼はその都市に引っ越し、そこに住み続ける予定です。]
(7) 丈夫去世后，这些房产都由她的儿子继承下去。(→*继续继承)
[旦那はなくなった後、これらの不動産はすべて彼女の息子が引き継ぐ。]

この三例の下線で示された動作は終結点を持たない。即ち、例(5)の動作「やる」をいつまで続けていくか、例(6)いつまで住み続けるか、例(7)いつまで不動産の権利を持つかについては明らかではないのである。このように、“V 下去”はしばしば持続性のある動詞と共起し、終結点のない動作を表す。例えば、“生存、流传、繁衍、遗传、沿用、继承、留存、延续”のような動詞がこれに該当する。

(8) 企业在这种形势下能否生存下去，商品质量是一个决定的因素。(→*继续生存)
［企業がこのような状況下で生存し続けることができるかどうかには商品の品質が一つの決定的な要素となる。］
(9) 此书流传至今，还将流传下去。(→*继续流传)
［この本は今まで伝わってきており、今後もさらに伝わっていく。］
(10) 中缅友好应世世代代延续下去。(→*继续延续)
［中国とミャンマーの友情が代々続くようにしなければならない。］

3.2. “继续 V”

一方、原・常次（2012）は“继续 V”は telic な事態を表現することができると述べている。このとき、T_i、 T_f 、D と R の関係は【図 4】のように示され、参照点以前から動作や状態が継続してきたことや、中断後に動作や状態が再開されることを表す。T_i、T_f が両方存在しており、ある動作や状態が一定の時間（D）継続している。

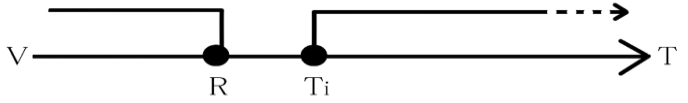


【図 4】　“继续 V”の時間関係図（1）

(11) 到会议结束之前，我们将继续讨论这个问题。(→*讨论下去)
［会議が終わるまで私たちは引き続きこの問題について論議する。］
(12) 考上以后，还要继续在学校实习三年。(→*实习下去)
［合格した後、また学校で引き続き三年間実習する。］

例(11)“继续讨论这个问题”の“讨论”という動作は発話前から続いている動作で、終結点は会議が終わる時点である。例(12)“继续实习三年”は実習を継続し、その終結点は“三年後”である。例(11)、例(12)から“继续 V”には動作の終結点があることが分かる。

また、“继续 V”を用いて継続性のある動作や状態の中断を表すこともできる。この場合、動作が一度中断される時点が参照点となり、T_i までの動作・状態の中断を表す。(【図 5】を参照)

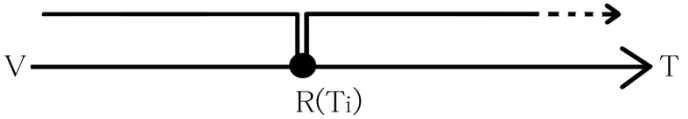


【図 5】 “继续 V”の時間関係図（2）

(13) 今天就干到这儿，明天继续干。(→*干下去)
［今日はここまでにします。明日引き続き行います。］
(14) 此讲座分为五次：一讲汉代，二讲唐代，以后继续讲宋、明、清。(→*讲下去)
［この講座は 5 回に分けられます。第 1 講は漢代、第 2 講は唐代。その後引き続き宋、明、清について講義を行います。］

例(13)は 発話時点“这儿”が参照時間である。“干”という動作は発話の前から行われてきており、仕事は“这儿”で中断される。“明天”は継続が再開される時間であり、今日から明日にかけては、仕事が中断されている。例(14)は一連の講義が次回の講座や授業まで中断されることを表す。このように、“继续”は中断性を表すことができるのである。この場合、“继续”を“下去”に置き換えることはできない。

【図 6】では、【図 5】において中断されていた動作が瞬間的に再開され、継続されていくことを表す。



【図 6】 “继续 V”の時間関係図（3）

(15) 中央继续拨款帮助经济困难地区实施义务教育。(→*拨下去款)
［中央政府は引き続き経済的に困難な地域に割当金を配布し、そのお金は義務教育に使われる。］
(16) 部分成员仍留在美国继续从事社会政治理论研究。(→*从事下去)

［メンバーの一部はアメリカに残り、引き続き社会政治理論の研究に携わる。］

例(15)、例(16)の“继续拨款”と“继续从事”の“继续 V”には終結点がない。【図 5】と異なる点は、R 以前に行われていた動作が瞬間的に引き継がれている点である。この場合も、“继续 V”を“V 下去”に置き換えることはできない。

3.3. まとめ

以上“继续 V”と“V 下去”の文法的意味の違いをまとめると以下のようになる。“继续 V”は、参照点後にある動作・行為の起点に焦点を置く。それに対して、“V 下去”は、参照点後にある動作・行為の継続に焦点を置いている。“继续 V”は「参照点より前に行われている動作・行為」の存在を必須としているが、「再開後の終結点」や「再開までの中断」は必須ではない。一方、“V 下去”には「終結点のない継続」が必要であり、「限界性」や「中断性」を持ち得ないという特徴がある。このため、“下去”は事態の展開を表す動詞“发展、存在、维持”などと共起しやすい。

4. 統語的観点

4.1. “把”構文

次の例においては、目的語を文頭（例(17)a）あるいは介詞“把”を用いて前置する（例(17) b）ことはできるが、“V 下去”の後や間には置くことができない。

(17)a. 他想把这项工作干下去。
b. 这项工作他想干下去。
c. *他想干这项工作下去。
d. *他想干下这项工作去。
e. *他想干下去这项工作。

“V 下去”の場合は、(17)c. ～e. のように目的語を後ろに置いた形が統語的に成立しないので、(17)a. ～b. のような形を取らざるをえない。一方、“继续 V”の場合は、例（18）のように、“把”を用いて前置することができない。

(18)*他想把这项工作继续干。

この理由は“继续 V” と“把”構文の焦点の違いであると思われる。“继续”は前の動作に続けて次の動作を行うということを表す語句であり、文の焦点は中断前の動作である。一方、“把”構文は目的語に対して何らかの動作を加えることを表す文であり、目的語成分に焦点を置いて語る際に用いられる。“把”構文に“继续”を加えると、文の焦点が「中断前の動作」にあるのか「目的語」にあるのかが曖昧になってしまうのである。

4.2. 連動文・兼語文・二重目的語文

“继续”は次のような連動文（例（19））および兼語文（例（20））二重目的語文（例（21））において用いることができるが、“下去”は用いることができない。

(19) 我们必须拿着现代文明的钥匙,才能继续不断地去开发现代文明的宝库。
[現代文明の鍵を持っていれば、我々は必ず現代文明の宝庫を開発しつづけることができる。]
→*我们必须拿着现代文明的钥匙,才能不断地去开发现代文明的宝库下去。

(20) 培养学生学习汉语的兴趣和方法，使学生具有继续学习汉语的动机和愿望。
[学生の中国語に対する興味をかきたてるような学習方法を発展させ、学生に中国語を学習するための動機や願望を持ち続けさせる。]
→*培养学生学习汉语的兴趣和方法,使学生具有学习汉语的动机和愿望下去。

(21) 不论你们得在这待多长时间，喇嘛寺都会继续给你们最热情的照顾。
[あなたたちがここにどんなに長くとどまっていようと、喇嘛寺は引き続きあなたたちに最良なおもてなしをいたします。]
→*不论你们得在这待多长时间，喇嘛寺都会给你们最热情的照顾下去。

“下去”は動詞の直後に置かれ、動詞との間にはほかの成分を挿入することができない。連動文、兼語文、二重目的語文で“下去”を用いようとすると、動詞と“下去”の間にほかの成分を挟んでしまい、文として成立しない。また、“继续”は前から修飾するので、複数の動詞、目的語について述べることができるが、“下去”だとそれがついている動詞のみに言及することになるため、文は不成立となる。

５．修飾語との関係

5.1.　接続義を表す副詞との関係

動作の新たな起点を表す副詞のうち“接着”“然后”“立刻”“又”などのごく短い中断を表すものが用いられる場合、“继续 V”“V 下去”はともに使用可能である。

(22) 他抬头看了看，接着继续整理资料。
［彼は頭を上げて様子を伺い、引き続き資料の整理を行った。］
(23) 王朝新说到这里，突然打住，看了看小何，又接着说下去。
［王朝新はここまで言って、突然言うのをやめ、何さんを見て、また続けて言う。］
(24) 汽笛一响，火车立刻继续向西行驶。
［汽笛が鳴り、列車はすぐに西方面へ走り始めた。］
(25) 受到领导的鼓励后，他又立刻信心十足地工作下去。
［上司に励ましの言葉をもらった後､彼はすぐまた自信を持って仕事を続ける。］

しかし、副詞“从此”［その後］は、一度中断された動作や状態が継続されるという意味ではなく、新たな動作の開始点を表す。このため、“继续 V”とは共起せず、“V 下去”としか共起しない。(【図 3】参照)

(26) 世上有两种人，一种人一经打击就心灰意冷，从此消沉下去。(→*继续消沉)
［世の中には二種類の人がいる。一つはショックを受けるとすぐ落ち込んで、それ以降意気消沈する人がいる。］
(27) 从此又要一个人走下去。(→*继续走)
［これから、また一人で歩いていくしかない。］

5.2.　時間副詞との関係

“V 下去”は限界性を持たず、長期的かつ連続的な副詞“长期、一直、一路、永远”などと共起する。“V 下去”がこのような副詞と組み合わさると、動作や状態が長時間にわたって継続することを表す。

(28) 做一件事情怎么才可以长期坚持下去呢?
［あることをやるにしても、どうすれば長く続けていけるのだろうか?］
(29) 永远活下去。
［永遠に生きていく。］
(30) 用同样的方法一直念下去，直到你不需要看卡片为止。

［同じ方法でずっと読んでいき、カードを見なくてもいいように。］

一方、“继续 V”では、継続している動作や状態は永続的には行われない。そのため、一定の期間を表す時間の表現と共起する。

(31) 他还可以继续工作五年。(→*工作下去)
［彼はまた五年間仕事を続けられる。］
(32) 中国的经济在未来十年将继续突飞猛进。(→*突飞猛进下去)
［中国の経済はこれから十年間、引き続き目覚ましく発展するだろう。］

例(31)と例(32)では“五年”と“十年”という限定的な継続時間を表す語句が用いられているため、“V 下去”とは共起し難い。

5.3. 進行相や将然相を表す副詞との関係

“继续 V”は、“在”“正在”“将”“将要”などの進行や将然相を表す副詞と共起し、動作や状態が進行中あるいはこれから発生しようとする段階にあることを表す。

(33) 我国多个单位协同进行临床实践研究，目前研究正在继续进行。(→*进行下去)
［我が国の多くの企業に協力していただいて臨床実践研究を行い、目下、研究は引き続き行われている最中だ。］
(34) 明天总理将要继续前往欧洲各国访问。(→*访问下去)
［明日総理は引き続きヨーロッパ各国を訪問する。］

例(33) の“研究”という動作は今まさに行われている段階にある。例(34)“訪問”は明日発生する段階にある。

一方で、“V 下去”は限界性を有さず、動作や状態がある時点から継続して進行するか発展していくということを表す。そのため、今という時間に限定され

るという意味で限界性がある進行相や将然相を表す副詞とは時間的に相容れない。

5.4. 方式・手段を表す語句との関係

“V 下去”はしばしば“一代一代”“一层层”“一天天”のような動作の方式や手段を表す語句と共起し、動作の過程に焦点を当て、動作や状態が次第に発展していくということを表す。

(35) 必须将社会实践中积累起来的经验，一代一代地传下去。(→*一代一代地继续传)
[社会実践を通して積み重ねた経験を代々伝えていかなければならない。]
(36) 这样一层层分下去，直到全部都是单个的词为止。(→*一层层继续分)
[このように階層ごとに分けていき、すべて個々の単語になるまで続ける。]
(37) 但是鲁迅后来看到章太炎一天天颓废下去。(→*一天天继续颓废)
[ただし魯迅はその後、章太炎が日に日に意気消沈していくことに気付いた。]

また、“V 下去”は前に現れた性質、状態、方式、程度と同じように、動作や状態が継続されることを表す。これは“如此”や“这样”のような指示義を表す副詞と共起しやすい。

(38) 如此搞下去，你的身体就会跨的。(→*如此继续搞)
[このようにやり続けていたら、あなたの体は持たないよ。]
(39) 这样写下去，就不叫文章了。(→*这样继续写)
[このように書いていくと、文章とは呼べなくなってしまう。]

一方、“继续 V”は、“V 下去”のように動作や状態の様式の継続について表すことができず、方式・手段や指示義を表す副詞とは共起できない。これは“V 下去”が継続の開始点を引き立てる補語である一方で、“继续 V”が“V 下去”のように動作や状態の過程性を有していないためだと思われる。

6．まとめ

以上、“继续 V”と“V 下去”を比較し論述してきた。両者はともに動作・状態の継続を表す表現であるが、さまざまな相違点が見られた。比較した結果は以下のようにまとめられる。

1．“继续”および“下去”と動詞の共起関係は、動詞の性格によって制約がある。「持続性動詞」は両者とも共起できるのに対し、「非持続性動詞」は両者ともに基本的には共起できない。しかし、「非持続性動詞」のうち、「動作瞬間動詞」であれば両者とも共起できる。同じ瞬間動詞であっても「結果瞬間動詞」は両者ともに共起できない。

2．“继续 V”と“V 下去”には文中の焦点に違いがある。“继续 V”は動作・状態の継続の開始点に焦点を当てた継続表現であるのに対し、“V 下去”は動作・状態の展開過程に焦点を当てた継続表現である。

3．統語的制約として、“继续 V”は介詞“把”を用いて目的語の前置をすることができない。一方、“V 下去”においては可能である。また、連動文・兼語文・二重目的語文においては“继续 V”のみを用いることができる。

4．“继续 V” および“V 下去”と修飾語の共起関係は【表１】のようになる。

【表１】

種類	例	继续 V	V 下去
接続表現	接着、然后、立刻	＋	＋
	从此	－	＋
時間表現	长期、一直、永远	－	＋
	五年、十年	＋	－
進行相・将然相を表す表現	在、正在	＋	－
	将、将要	＋	－
方式・手段を表す表現	一代一代	－	＋
指示表現	这样、如此	－	＋

接続義を表す副詞は両者とも共起できるが、“从此”の場合、新たな動作・状態の開始時間を表すため、“从此”は“V 下去”のみと共起する。また、時間表現のうち、長時間を表し、かつ限界性がない副詞は、“V 下去”とのみ共起する。それに対して、限界性のある時間表現は“继续 V”とのみ共起する。“继续 V”

は“在、正在、将、将要”など進行や未来を表す副詞と共起するが、“V 下去”は共起しない。“V 下去”は方式詞・指示詞とよく共起し、動作の過程に焦点を当て、動作や状態が段階的に発展していくことを表す。“继续 V”は動作や状態の過程性を持たず、継続の開始点を引き立てるため、方式・手段や指示義の表現を用いることができない。

本稿では（1）“继续 V”と（2）“V 下去” 二者の類似点と相違点に注目したが、今後今回取り扱わなかったタイプ（3）“继续 V 下去”を取り入れて、三者の類似点と相違点について明らかにしたい。

参考文献

房玉清　≪实用汉语语法≫（修订本）、北京大学出版社、2001 年。

郭锐　＜汉语动词的过程结构＞≪中国语文≫第六期、四百一十页～四百一十九页、1993 年。

胡裕树・范晓　≪动词研究≫、河南大学出版社、1995 年。

刘月华　≪趋向补语通释≫、北京语言大学出版社、1998 年。

马庆株「时量宾语和动词的类」≪中国语文≫第二期、八十六页～九十页、1981 年。

杉村博文　＜试论趋向补语“・下”、“・下来”“・下去”的引申用法＞≪语言教学与研究≫第四期、(≪现代汉语补语研究资料≫北京语言学院语言教学研究所编、北京语言出版社 1992 年、四百五十一页～四百六十五页所收）1983 年。

原由起子・常次莉恵　＜“继续 V”、“V 下去”与“继续 V 下去”＞『中国語文法研究』、山东人民出版社、2012 年卷、一百三十七页一百五十二页、2012 年。

平澤佳代「「V＋つづける」に見る語結合と意味 ― 中国語との比較対照の観点から―」『言語と交流研究会言語と交流』、第 7 号、七十頁～八十一頁、2006 年。

（本論文で使用した例文は北京大学の CCL コーパスから検索したものである。）